

1840
1850

卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

田中克明教授、牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、高橋勇一郎講師、萩原千春講師、福田弘講師、萩野美有紀講師、山本博一講師、富谷智講師、足立正講師、伊坂重春講師、中島良弘講師

授業の概要と目標

工芸工業デザイン学科の各コースならびに選択領域において自由にテーマを設定し、選択した各領域で学習した内容を踏まえた総括的な提案を基本とする。

授業は、テーマの設定、デザイン、制作、提出といった流れの通信授業を、その間数回に渡って教員が、面接授業として直接チェックし指導するという形式をとる。面接授業は、担当の専門分野の教員と協議の上、2単位に相当する個人面接あるいはグループ面接の形で適宜分散して行う。

提出作品は、製品あるいはモデル、さらにはパネルによるプレゼンテーションなどあらゆる媒体を駆使した形で発表し、卒業制作展やWeb上で公表される。

※クラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、平成28年4月以降の入学生は選択不可。平成27年10月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は平成31年度までとなるので注意すること。

課題の概要

生活環境デザイン、スペースデザインの各コースで学習した内容を踏まえ、各領域に於いて各自のテーマを自由に設定し、デザイン・制作しなさい。プロダクトデザイン系では、「生活環境計画Ⅰ」「生活環境デザイン研究」で学習した“エコデザイン”“ユニバーサルデザイン”等のテーマ、「生活環境計画Ⅱ」の各自のテーマを発展させて卒業制作のテーマにつなげていくことを推奨する。

授業計画

○通信授業

卒業制作のテーマ及びそのコンセプトの立案を最初の課題とし、その後はデザイン作業を深め卒業制作展示の形で発表する。

○面接授業

各自のテーマ及びそのコンセプトの検討、中間指導、展示および最終講評を内容とし、年間スケジュールに準拠した期日を目安に行う。担当教員との直接面談による指導を基本とするが、コース・クラス別合同の形が適宜設定される。

- ・クラフトデザイン系各素材別クラスは、鷹の台工房が主な会場となるが各クラスにより、吉祥寺校の場合もある。
- ・テキスタイルクラスは面接授業内で工場見学（岐阜）を行う。
- ・期日など詳細は学習指導書及び月刊誌『武蔵美通信』等を参照のこと。

成績評価の方法

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・工芸工業デザイン学科各コースに在籍していること。
- ・工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.049の特例を除く）。
- ・工芸工業デザイン学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 工芸工業デザイン学科各コース4年次必修科目。

教材等

学習指導書：『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作 平成29年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）

『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作 平成29年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）